

◇講習会報告◇

No.16-120 講習会 [見学会付]「海洋エネルギー利用技術研究開発の最前線」

部門企画委員会 渡邊 泰 (電中研)、中山 義之 (原電)、小野 綾子 (JAEA)

2016年10月18日(火)に「海洋エネルギー利用技術研究開発の最前線」と題し、講習会[見学会付]を実施した。当会は参加申込みが21名で委員3名が引率し、国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)の横須賀本部と横浜研究所において行われた。

午前にはJAMSTEC横須賀本部の施設見学を行った。横須賀本部では、潜水調査船整備場、無人探査機整備場、海洋科学技術館を見学させていただき、メンテナンス中のしんかい6500や様々な種類の海底探査機等、普段なかなか見られない設備を目の当たりにでき、参加者からも多くの質問がなされていた。横須賀本部見学後は、JAMSTEC横浜研究所へ移動し、昼食後、午後から横浜研究所の施設見学を行った。横浜研究所では、地球シミュレータと地球情報館を見学させていただいた。

見学会終了後、横浜研究所内にある三好記念講堂において、5件の講演が実施された。1件目は東京海洋大学 刑部真弘様より「ブルーカーボンってなに?」と題して、二酸化炭素と海洋環境の関係性や再生可能エネルギー資源の特徴に関して、体系的に解説いただくとともに、理事長を務められているブルーカーボン研究連携機構の取り組みに関して、ご講演いただいた。2件目は佐賀大学 池上康之様より「新しいステージに向かう海洋温度差発電の現状と展望～再生可能エネルギーにおける安定的な電源の役割を目指して～」と題して、海洋温度差発電の開発事業に関する国内外の最新動向や沖縄県久米島での実証事業について、ご紹介いただくと共に、海洋温度差発電の原理から商用化へ向けての課題まで幅広い内容でご講演いただいた。3件目はIHI 長屋茂樹様より「海流発電システムの開発～黒潮の利用を目指して～」と題して、海流発電の特徴や現在IHIで取り組まれている水中浮遊式海流発電システムの実証試験事業についてご講演いただいた。4件目は産業技術総合研究所 天満則夫様より「メタンハイドレート資源開発に係る生産手法開発の現状について」と題して、メタンハイドレート資源や生産手法開発の特徴と課題について解説いただくと共に、国のプロジェクトとして進められている生産手法開発に関する最新の研究成果について、ご講演いただいた。最後に、JAMSTEC 佐々木亘様からは「地球シミュレータによる海洋・地球環境の予測技術」と題して、地球シミュレータによる大気・海洋の予測シミュレーションの紹介と、洋上・波力エネルギーの潜在力評価や予測に関する研究成果について、ご講演いただいた。

いずれの講演も平易に解説いただき、質疑応答や意見交換が活発であった。末筆ではあるが、今回の講習会開催にあたり、会場準備や見学対応等運営面で多大なるご協力をいただいたJAMSTEC関係者の方々と5名の講師の先生方にお礼を申し上げたい。



海洋研究開発機構 横須賀本部にて
(メンテナンス中のしんかい6500の見学)



海洋研究開発機構 横浜研究所にて
(講習会の様子)

ここでは、段落の字下げ、本文中には（株）等の株式会社の屋号は割愛いたします。読点と句点は、と。です。数字や%は半角です。（原稿がこれらと異なる場合は広報委員会で微修正させていただきます。写真と報告文で1頁以内としてください。